

令和6年度 学校経営計画・学校評価		2月4日提出	10月3日提出	3月14日提出	学校番号 14	高知東	高等学校	課程	全
高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働しよう人	基本方針	① 予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ② 多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③ 生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④ 各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ◆1年次の産業社会と人間、2・3年次の「立志」(総合的な探究の時間)の履修を通じて、身近な地域にある課題解決にチャレンジするともに、職業意識や進路への考えを深め、生涯に渡って課題や目標を定め、情熱をもって前進する姿勢を育成します。 ◆総合学科では、生徒の多様なニーズに対応したカリキュラムのもと、進路実現まできめ細かな指導を行います。1年次は全員共通の学習を行い、2年次からは7つのコースに分かれて、それぞれのコース特有の学習活動を通じて、進路実現につながる力を身に付けます。 ◆看護科では、看護者にならば、人間性を高めるとともに、授業・実習を通じて、基礎的な看護に関する知識と技術を習得します。 ◆看護専攻科では、看護科での3年間の基礎的な知識・技術の上に、さらに2年間、併せて5年間、一貫性のある看護教育を行います。特に、授業・実習を通じて、高度な知識と確かな技術を習得し、最終的には国家試験の合格を目指します。	学校関係者評価 【学力の向上】 評価 【 B 】 ・基礎力診断テストにおけるC層以上の生徒の増加など、一定の成果が見られた。 1年1回目 41.9% → 2年2回目 54.6%、2年1回目 39.1% → 2年2回目 43.6% ・個々の生徒に応じた生徒にわかりやすい授業を実践することができている。 学校評価アンケート: 先生はわかりやすい授業に力をつけていると思いますか。生徒 91.3%(肯定的回答) 【社会性の育成】 評価 【 C 】 ・生徒が主体的・協働的に社会に参画しようとする姿勢と態度を育成するために、身近な地域の課題解決にチャレンジするなど、地域と連携した課題解決型の探究学習を推進する。 学校評価アンケート: 生徒は、日頃から日常生活のマナーや社会のルールを守りよく取り組んでいますか。地域 20% (肯定的回答) ・生徒たちは目標を持って充実した学校生活を送っていると思いますか。地域 43%(肯定的回答) 【チーム学校】 評価 【 B 】 ・A日程の志願倍率が低下しており、今後、学校の取組や特色等の理解促進のための広報活動を充実させる必要がある。 志願倍率(A日程) 総合学科 0.88、看護科 0.47 ・ボランティア活動等の地域貢献活動を継続するなど、地域連携を推進する。 さわやか参加生徒数 延~769人				
スクールのポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学受け入れ方針) 次の生徒を積極的に受け入れます。 ・主体的に学び、考え、行動したいと考えている生徒 ・将来の夢の実現のために、前進したいと考えている生徒 ・他者と協働し、より良いものを創造したいと考えている生徒 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ◎「進学の精神(立志)」自ら目標を定め、前向きに頑張る姿勢と前向きな精神 ◎「協働の精神」より良いものを作るために、他者と協働しようとする精神 ◎「課題解決力」現状把握力: 様々な方法を通じて地域の特色・魅力・課題を知る力 ・創造力: 仮説に基づいて、新たな価値観を創造する(魅力を一層高める、課題を解決する等)の方策(～すれば…なるだろう)を考え、実践する力 ・分析力: 結果を分析し、持続可能な地域のために有効な考えを導き出す力 ・コミュニケーション力: 自らの考えを他者に効果的に伝える力								

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P-D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力的向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	○C層以上の生徒の増加 (参考:R5(2回)1年51.4%、2年31.9%) 1年(R6年度1年4月)41.9% → (R6年度1年11月)46.9% 5p以上 2年(R5年度1年4月)39.1% → (R6年度2年11月)44.1% 5p以上 ○授業外学習時間の増加 (参考:R5(2回)1年26分、2年29分) 1年(R6年度1年4月)50分 → (R6年度2年11月)55分 5分以上 2年(R6年度1年4月)55分 → (R6年度2年11月)60分 5分以上 ※「家庭学習しない」の割合の減少(参考:R5(2回)1年58.0%、2年54.2%) 1年(R6年度1年4月)28.8% → (R6年度1年11月)23.8% 5p以上 2年(R5年度1年4月)20.0% → (R6年度2年11月)15.0% 5p以下 ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・県ア問14「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」の肯定的回答(参考:R6(2回)1年80.1%、2年83.8%) 1年(R6年度1年1回目)87.2% → (R6年度1年2回目)92.2% 5p以上 2年(R5年度1年1回目)85.1% → (R6年度2年2回目)90.1% 5p以上	○One Week Trialの徹底活用 ○授業改善プロジェクトの推進 ・生徒の学力・学習習慣の現状の変容を目標とし、効果的な指導(タブレット活用を含む)の在り方について実践研究を行う。 ○授業改善プロジェクトの推進 (仮説→試案→公開授業→検証→改善) ○学習支援員事業を活用した生徒の学習の質の向上及び学習場所・時間の確保 ○看護教育改善プロジェクトの推進 ・持続可能な看護・医療従事者の育成のために、全ての教育活動実践及び学習環境整備の効果について実践研究を行う。 (仮説→計画→実践→検証→改善)	○C層以上の生徒の増加 1年(1回目)41.9% 2年(1回目)27.8% ○授業外学習時間の増加 1年(1回目)50分 2年(1回目)29分 ※「家庭学習しない」の割合の減少 1年(1回目)28.8% 2年(1回目)23.8% ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・県ア問14「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」の肯定的回答 1年(1回目):87.2% 2年(1回目):77.9%	○各教科での教科会の開催 ・生徒の現状や課題の共有 ・具体的な取組内容の検討等 ○学習支援員事業の活用 ・基礎力向上補習の実施(学習時間確保、学力向上) ・放課後学習支援の実施(学習時間確保、学習習慣) ○授業改善プロジェクトの推進 ・生徒の学力実態等の把握 ・生徒の実態を踏まえた目標設定 ・効果的な指導方法について実践研究	○C層以上の生徒の増加 1年(1年1回目)41.9%→54.6%(1年2回目) 12.7p増 2年(1年1回目)39.1%→43.6%(2年2回目) 4.5p増 ○授業外学習時間の増加 1年(1年1回目)50分→23分(1年2回目) 28分減 2年(1年1回目)55分→23分(2年2回目) 32分減 ※「家庭学習しない」の割合の減少 1年(1年1回目)28.8%→23.8%(1年2回目) 30.7p増 2年(1年1回目)20.0%→15.0%(2年2回目) 35.6p増 ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・県ア問14「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」の肯定的回答 1年(1年1回目):87.2% → 82.5%(1年2回目) 4.7p減 2年(1年1回目):85.1% → 76.9%(2年2回目) 8.2p減	○授業改善プロジェクト(仮)の推進 ・各教科から選出された教員でチームを編成し、学力向上に向けた現状や課題を分析し、授業改善や授業外学習時間の改善等の具体的な手立てを検討し、実践する。 ○学習支援員事業の有効活用 ・学習支援員を有効活用し、学校での生徒の学習の質と時間を確保する。 ○タブレットを含めICTを効果的に活用した授業改善
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬき力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○社会性の育成 ・県ア問18「自分という存在を大切に思える」の肯定的回答(参考:R5(2回)1年79.3%、2年75.4%) 1年(R6年度1年1回目)86.3% → (R6年度1年2回目)91.3% 5p以上 2年(R5年度1年1回目)79.8% → (R6年度2年2回目)84.8% 5p以上 県ア問19「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答(参考:R5(2回)1年48.7、2年56%) 1年(R6年度1年1回目)67.9 → (R6年度1年2回目)72.9% 5p以上 2年(R5年度1年1回目)56.6% → (R6年度2年2回目)61.6% 5p以上	○「ひがしノート」の活用 ○進路・欠席情報の徹底 ○地域課題解決学習の推進 ○ボランティア活動の推進 ○地域の大人、社会人や卒業生との交流推進 ○仲間づくり活動・体験活動の推進	○社会性の育成 ・県ア問18「自分という存在を大切に思える」の肯定的回答 1年(1回目):86.3% 2年(1回目):80.3% ・県ア問19「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答 1年(1回目):67.9% 2年(1回目):51.2%	○地域と連携した探究学習の推進 ・地域との交流促進 ・探究学習をとおして、生徒の主体性、協調性等を育成する	○社会性の育成 ・県ア問18「自分という存在を大切に思える」の肯定的回答 1年(1年1回目):86.3% → 83.5%(1年2回目) 2.8p減 2年(1年1回目):79.8% → 84.9%(2年2回目) 5.1p増 ・県ア問19「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答 1年(1年1回目):67.9% → 54.4%(1年2回目) 13.5p減 2年(1年1回目):56.6% → 50.3%(2年2回目) 6.3p減
地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○地域や社会に貢献できる生徒の増加 ・県ア問21「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」の肯定的回答 (参考:R5(2回)1年35.1%、2年37.0%) 1年(R6年度1年1回目)59.5% → (R6年度1年2回目)64.5% 5p以上 2年(R5年度1年1回目)37.7% → (R6年度2年2回目)42.7% 5p以上	○1年「産業社会と人間」 「一言探訪(地域探究学習)」を実施し、身近な一宮地区周辺の事業を訪問し、地域の課題について調査を行い、課題解決を自分事として捉え、解決策を考え提案する。そのなかで、自身の興味・関心など自己理解を深め、将来の夢や目標を明確にし、社会的自立・社会参画に向けた主体的な態度を育成する。 ○2・3年生「総合的な探究の時間」 1年次の産社での学習を踏まえ探究課題を設定し、情報の収集・整理・分析を行い、社会の対応を調査し、自分にも実現可能な解決策を考案して実行する。また、その効果を分析して、改善策等をまとめて表現するなど、探究学習のサイクルを繰り返し、問いを深めるなかで、社会的自立・社会参画に必要な資質・能力を育成する。	○地域や社会に貢献できる生徒の増加 ・県ア問21「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」の肯定的回答 1年(1回目):59.5% 2年(1回目):53.2%	○「産社/立志」の時間における、地域と連携した探究学習の推進 ○総合学科全国大会(高知大会)における公開授業の実施(産社/立志)	○地域や社会に貢献できる生徒の増加 ・県ア問21「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」の肯定的回答 1年(1年1回目):59.5% → 59.7%(1年2回目) 0.2p増 2年(1年1回目):37.7% → 53.7%(2年2回目) 16p増	○総合学科全国大会(高知大会)分科発表会での全国の総合学科の取り組みを参考にして、本校の「産社/立志」の在り方について再検討していく必要がある。
	取組項目	【取組のねらい】 ○学習の基礎となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○課題解決型探究キャリア学習 1年次「産業社会と人間」及び2・3年次の総合的な探究の時間「立志」でのコミュニケーション能力、情報活用能力、キャリア形成に係る能力の育成 ・県ア問25 1年(R6年度1年1回目)93.8% → (R6年度1年2回目)98.8% 5p以上 2年(R5年度1年1回目)94.2% → (R6年度2年2回目)99.2% 5p以上 県ア問27 1年(R6年度1年1回目)88.7% → (R6年度1年2回目)93.7% 5p以上 2年(R5年度1年1回目)82.5% → (R6年度2年2回目)87.5% 5p以上 県ア問28 1年(R6年度1年1回目)81.1% → (R6年度1年2回目)86.1% 5p以上 2年(R5年度1年1回目)80.3% → (R6年度2年2回目)85.3% 5p以上 県ア問29 各5p以上 1年(R6年度1年1回目)86.8% → (R6年度1年2回目)91.8% 5p以上 2年(R5年度1年1回目)77.6% → (R6年度2年2回目)82.6% 5p以上 ○資質能力、情報活用能力、課題を解決に結び付ける力 ・県ア問10「学校の授業では、学んだ知識をもとに考え、まとめたり、話し合ったり、発表したりする機会がある」の肯定的回答 (参考:R5(2回)1年83.8%、2年79.7%) 1年(R6年度1年1回目)86.8% → (R6年度1年2回目)91.8% 5p以上 2年(R5年度1年1回目)72.4% → (R6年度2年2回目)77.4% 5p以上	○課題解決型探究プロジェクトの推進 ・生徒の進路選択や実現、キャリア形成に結びつく3年間の課題解決型探究学習となるよう産社/立志の学習到達目標・最終到達目標を再設定し、その実現に向けた効果的な指導と評価を改善・実践し、検証する。	○課題解決型探究キャリア学習 ・県ア問25 1年(1回目):93.8%、2年(1回目):91.6% ・県ア問27 1年(1回目):88.7%、2年(1回目):76.3% ・県ア問28 1年(1回目):81.1%、2年(1回目):82.3% ・県ア問29 1年(1回目):84.4%、2年(1回目):82.2% ○資質能力、情報活用能力、課題を解決に結び付ける力 ・県ア問10「学校の授業では、学んだ知識をもとに考え、まとめたり、話し合ったり、発表したりする機会がある」の肯定的回答 1年(1回目):86.8% 2年(1回目):73.4%	○「産社/立志」担当者会における授業研究の推進 ○各教科における探究学習の推進及び教科間連携による公開授業の実施 ○他教科の授業の積極的参観 ・タブレット等を効果的に活用した授業実践 ・教科間での情報共有	○課題解決型探究キャリア学習 ・県ア問25 1年(1年1回目):93.8% → 97.1%(1年2回目) 3.3p増 2年(1年1回目):94.2% → 91.9%(2年2回目) 2.3p減 ・県ア問27 1年(1年1回目):88.7% → 84.4%(1年2回目) 4.3p減 2年(1年1回目):82.5% → 82.4%(2年2回目) 0.1p減 ・県ア問28 1年(1年1回目):81.1% → 82.5%(1年2回目) 1.4p増 2年(1年1回目):80.3% → 80.9%(2年2回目) 0.6p増 ・県ア問29 1年(1年1回目):86.8% → 85.4%(1年2回目) 1.4p減 2年(1年1回目):77.6% → 84%(2年2回目) 6.4p増 ○資質能力、情報活用能力、課題を解決に結び付ける力 ・県ア問10「学校の授業では、学んだ知識をもとに考え、まとめたり、話し合ったり、発表したりする機会がある」の肯定的回答 1年(1年1回目):86.8% → 83%(1年2回目) 3.8p減 2年(1年1回目):72.4% → 72.3%(2年2回目) 0.1p減

重点項目	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P-D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学校の振興	★学校の魅力化 ○生徒・保護者が「入学して(させて)良かった」と思える学校づくり	○志願倍率(A日程)の向上 R6入試 総合0.92、看護0.83 総合学科 0.95、看護科 0.90 ○夢や目標を持つ生徒の増加 R5(3年2回) 85.7% 県ア問30「将来の夢や目標を持っている」の肯定的回答: 3年(R5年度1年1回目)77.8% → (R6年度3年2回目)80.8% 3p以上 ○部活動加入率 R5 57% (体育33%/文化24%) 60%以上	○教育課程等検討委員会 ・学校の魅力化に向けた教育課程、学習指導、学力向上に関する協議・検討する。 ○資格・検定の受験・取得の促進 ・教育課程検討委員会の開催 1回 ○ボランティア活動の機会拡大 ○看護科の地域貢献活動の推進 ○県内病院施設への看護師の供給	○中学校での高校取組の実施 ・39校(5/24~7/10) ○教育課程検討委員会 ・教育課程検討委員会の開催 1回 ○資格・検定の受験・取得の促進 ・漢字検定 準2級 3名、3級 4名 ・数学検定 1次合格 3名 ・英語検定 準2級 6名、3級 2名 ・情報処理検定 1級 2名、3級 15名 ・ビジネス文書実務検定(級合格者) 1級 1名、2級 1名、3級 4名 ○さわやか隊(年5回)参加者数 ・第1回:4/26(金) 211人(R5:185人) ・第2回:6/13(木) 199人(R5:181人) ・第3回:9/13(金) 130人(R5:107人) ○部活動加入率 ・R6 46.1%(317人/688人) 【体育 27.8%(191人)、文化 18.3%(126人)】	○本校生徒の進路実態等を踏まえた魅力ある教育課程の検討 ○生徒会を中心とした自主的・自発的な活動の推進(ボランティア活動等の地域連携)	○志願倍率(A日程)の向上 R6入試 総合0.92→0.88 R6入試 看護0.83→0.47 ○夢や目標を持つ生徒の増加 R5(3年2回) 85.7% 県ア問30「将来の夢や目標を持っている」の肯定的回答: 3年(1年1回目)77.8% → 89.6%(3年2回目) 11.8p増 ○部活動加入率 R5 57%【体育33%/文化24%】 →R6 46.1%【体育27.8%/文化18.3%】 10.9p減 ○資格・検定の受験・取得の促進 ・漢字検定 準2級 5名、3級 7名 ・数学検定 準2級 1次合格者 4名、3級 1次合格 3名 ・英語検定 準2級 8名、3級 2名 ・情報処理検定 1級 2名、2級 7名、3級 29名 ・ビジネス文書実務検定(級合格者) 1級3名、2級 7名、3級 17名 ・ビジネス計算検定 1級1名、2級2名、3級2名 ○さわやか隊(年6回)参加者数 ・第1回:4/26(金) 211人(R5:185人) ・第2回:6/13(木) 199人(R5:181人) ・第3回:9/13(金) 130人(R5:107人) ・第4回:11/7(木) 120人(R5:75人) ・第5回:1/17(金) 109人(R5:59人)	○「学校評価アンケートの結果」及びこれからの県立学校の在り方に関する報告」を踏まえ、学校の取組や特色等の理解促進のための広報活動を充実させる。 ○資格、検定試験に向けた個別補習の実施及び受験料補助などの経済的支援を検討する。 ○ボランティア活動等、地域貢献活動を推進する。 ○看護科の地域貢献活動(防災等)を推進する。
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題 ・不祥事、不注意事項等の発生防止 ・学校目標及び教職員の相互配慮の実現のための教職員間のコミュニケーション及び協働の徹底 ○校内研修の実施回数 2回 ○不祥事防止委員会の実施回数 3回	○不祥事防止委員会 ・不祥事を生まない風通しの良い職場づくりを目指し、校内研修の企画・立案して実施する。また、教職員が互いに高めあうことのできる、よりよい職場風土づくりに向けて具体的な取り組み等を協議し、実践する。	○不祥事防止委員会の開催 ・校内研修会の実施回数 3回(5月、7月、10月) ・不祥事防止委員会 5回(4月、5月、6月、7月、9月)	○不祥事防止委員会での検討内容等について職員会議で情報共有 ○校内研修実施後のアンケート結果の共有及び改善に向けた提案事項の検討	○不祥事防止委員会の開催 ・校内研修会の実施回数 3回(5月、7月、10月) ・不祥事防止委員会 5回(4月、5月、6月、7月、9月)
働き方改革	★長時間勤務の解消 ○各分掌の協働による業務改善 ○外部人材の活用等による教員の負担軽減	○時間外業務時間 月80時間以上の教員0名	○各分掌、各教科の取組の可視化(年間計画一覽表の作成など)と協働 ○業務分掌等の整理・見直し ○部活動がイライラに陥った部活動運営 ○教員業務支援員や部活動指導員等の活用による教員の負担軽減及び長時間勤務の削減	○時間外業務時間 月80時間以上の教員(R5実績) ・4月~5月 2名(2名) ・6月~7月 2名(2名) ・8月~9月 2名(1名) ・10月~11月 2名(3名) ・12月~1月 0名(0名) ○部活動指導員の活用 ・運動部活動指導員の活用(ハンド男子、ハンド女子、テニス男子、弓道、レスリング男子) ・文化部活動指導員の活用(写真、茶道、華道)	○時間外勤務削減に向けた注意喚起 ○各教科や分掌業務の可視化 ○業務効率化に向けた教員アンケートの実施 ○教員業務支援員の配置の検討	○時間外業務時間 月80時間以上の教員(R5実績) ・4月~5月 2名(2名) ・6月~7月 2名(2名) ・8月~9月 2名(1名) ・10月~11月 2名(3名) ・12月~1月 0名(0名) ○部活動指導員の活用 ・運動部活動指導員の活用(ハンド男子、ハンド女子、テニス男子、弓道、レスリング男子) ・文化部活動指導員の活用(写真、茶道、華道)	○業務改善の推進 ・各分掌等の業務の見直しや外部人材の活用(教員業務支援員、運動部活動指導員、学習支援員等)を推進し、教員の時間外勤務の削減に取り組む。